

平成30年度第2回親子いきいき保健部会 摘録

日 時 平成31年2月28日（木） 18：30～20：30

場 所 職員会館かもがわ3階 大多目的室

出席者 尾崎明子委員，北島則子委員，熊谷幸江委員，志澤美保委員，芹澤出委員，
藤垣真貴子委員，藤本明美委員，松田義和委員（8名）

欠席者 木村友香理委員，小林知佐委員，田村秀子委員（3名）

次 第

<議題>

子ども・若者に係る総合的な計画策定に向けた市民ニーズ調査・意識調査等の現時点
の調査実施状況について

(司会：西村 子ども若者はぐくみ局子ども若者未来部育成推進課母子保健係長)

司会	<p>平成30年度 第2回「親子いきいき保健部会」を開催する。</p> <p>本日の会議については、市民に議論の内容を広くお知りいただくため、京都市市民参加推進条例第7条第1項の規定に基づき公開することとしている。</p> <p>あらかじめ御了承いただきたい。</p>
司会	<p>それでは、開会に当たり、子ども若者未来部の 大泉 子育て世代包括支援担当部長より挨拶を申し上げます。</p>
大泉 子ども若者未来部担当部長	<p>(開会あいさつ)</p>
司会	<p>続いて、本日お集まりいただいた委員を御紹介させていただきます。</p> <p>(委員紹介)</p>
司会	<p>「京都市はぐくみ推進審議会条例」第6条第3項において、当審議会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができないこととされているが、本日は、委員11名中、8名の方に御出席いただいているため、会議が成立していることを御報告申し上げます。</p>
司会	<p>続いて、松田部会長から一言お願いしたい。</p>
松田部会長	<p>昨今、児童虐待や不登校、産後うつ等、子どもと母親を取り巻く課題は多岐にわたる。今回の調査結果からも、課題が見えてくると思われるため、委員の皆様方からは忌憚のない御意見を頂戴したい。</p>
司会	<p>ここからの議事進行については、松田部会長にお願いする。</p>
松田部会長	<p>それでは、議事に入る。</p> <p>まず、次第の「議題」、「子ども・若者に係る総合的な計画策定に向けた市民ニーズ調査・意識調査等の現時点の調査実施状況について」事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>資料1「子ども・若者に係る総合的な計画策定に向けた市民ニーズ調査・意識調査の調査実施状況について」、資料2「京都市母子保健に関する意識調査について」を用いて説明</p>

松田部会長	ただ今の事務局からの説明について、質問はあるか。
藤本委員	育児期間中の、家族や公的なサポートに不満な理由について、「京都市の子育て支援サービスの内容や利用方法がわからなかった」という回答の割合が大きく気にかかる。各種子育て支援サービスに対する満足度とも合わせて検証できると良いのではないか。
事務局	問38において、各種子育て支援サービスを利用したことがない理由については回答を得られている。
松田部会長	保護者からは、子どもの健康診査受診のための交通費等、子育て支援サービスの利用に費用がかかるとも聞く。子育て支援サービスに対する不満については、保護者がサービス利用しにくい状況を表しているため、分析をしっかりと行う方が良い。
事務局	本市では、一昨年度、各区役所・支所に子どもはぐくみ室を設置し、各職員が子育て支援コンシェルジュとして、市民のニーズに気づき、必要な支援につなぐ役割を担っている。この役割を発揮しつつ、サービスを利用しにくい状況等の分析についても検討していきたい。
芹澤委員	回答者の家族構成についての設問はあったか。出産前後のイライラ感や不安は依然として高い割合を占めている。ひとり親の場合は、出産前後のイライラ感や不安が高いのではないかと気にかかる。
事務局	家族構成については設問が無い。家族の有無について推察できる設問は、問8（2）等、回答者の相談先（夫（パートナー）、父母等）に係るもののみである。
芹澤委員	妊娠・出産に係る課題について検討する部会が特定されていない。特定妊婦に対する支援をどのように展開するか、支援が漏れないよう、方向性を検討した方が良い。
松田部会長	<p>今回の調査対象は乳幼児健康診査に来所した保護者であり、健康診査未来所の保護者の意見が得られていない。</p> <p>調査結果から出産前後の精神的な落ち込みやイライラ感、育児不安を感じている方が一定数いることが分かり、何かしらの支援を検討していくべきだろう。例えば、障害の有無について判断ができないぐらい</p>

	<p>の子ども「育ち」で悩んでいる方も多いと感じるので、そういった方の育児相談等に対応できるような相談先の検討が必要ではないか。</p>
<p>芹澤委員</p>	<p>児童虐待への対応は子どもが生まれてからとなるが、乳児期には子どもの生命の危機が生じることもあるため、未然防止のために妊娠中からの支援や対策について検討する必要がある。</p>
<p>松田部会長</p>	<p>妊娠中からの家庭訪問事業の充実等、どのような対策を行うか、ぜひ検討していただきたい。</p>
<p>藤垣委員</p>	<p>京都市では、妊婦への家庭訪問事業として「こんにちはプレママ事業」を実施されているが、支援者側が妊娠中の家庭訪問を必要と感じていても、対象者にニーズが無い場合がある。産後は、授乳について等、育児の不安を感じるのは当然のことであり、虐待ハイリスクの対象者ではなくても、少しの支援が対象者の支えとなる。どの機関でも対象者を支援できることを積極的に伝えることが必要ではないか。</p>
<p>松田部会長</p>	<p>生後1か月の時期には、出産病院での健診を受けるのが通常であり、それが子どもの初めての受診となるのが通常だが、近頃、生後1か月未満の小児科受診が多いように感じる。ここには何らかのニーズが隠れていると思われるので、対象者のニーズを知り、様々な支援の形を検討することが必要である。</p>
<p>藤垣委員</p>	<p>近頃は、母親が身近な家族に相談しても、家族も一緒に迷い、不安を抱えるとも聞く。</p>
<p>松田部会</p>	<p>祖父母世代が孫育ての不安を感じる人が多いように感じる。</p>
<p>志澤委員</p>	<p>祖父母世代も母親と一緒にうつ状態になるとも聞く。</p>
<p>松田部会長</p>	<p>祖父母世代が母親と一緒に不安を感じ、うつ状態になる状況は、母が身近な家族に相談できない背景になるとも考えられ、これに対する支援は施策にも反映すべきではないか。</p>
<p>事務局</p>	<p>今回の調査結果から、生後5か月未満は母親が特に悩みや不安を感じやすい時期と認識している。本市においては、産婦健康診査の際に産後うつの指標であるEPDS質問票に対する回答を得ており、必要時は医療機関から各子どもはぐくみ室に情報提供を行う「産婦健診ホッとサポ</p>

	<p>ート」を平成29年度から実施している。支援を必要としている方を、家庭訪問等の支援に速やかにつなげるための重要な事業と考えている。</p> <p>問9(2)への回答からも、保護者が医療機関に相談する割合が増加していることが見て取れる。増加の理由は不明だが、父母等への相談割合が下がっている現状にある。</p>
松田部会長	<p>身近な家族への相談による解決も困難な今、保護者だけではなく祖父母世代等も含め、子どもをめぐる家庭一体として支援することが必要である。</p>
芹澤委員	<p>子どもはぐくみ室における支援を丁寧に行うと共に、産前産後サポート事業やNPO団体との協働等、市民により身近な支援を検討すると良いのではないか。</p>
志澤委員	<p>各回答の地域差は分析しているか。</p>
事務局	<p>地域差をみるため、居住区別にクロス集計している項目があるが、その他居住区別にみるべき項目があれば、御教示いただきたい。</p>
松田部会長	<p>育児不安については地域差の分析が必要だろう。</p>
志澤委員	<p>育児不安の他、本日の部会で意見が挙がった点についても、地域差を分析すると良いと思われる。</p>
熊谷委員	<p>1日3食の習慣は、若い世代には浸透していないのではないかと感じていたが、調査結果から意識の高さをうかがうことができ、驚いた。</p>
北島委員	<p>部会の進め方について説明していただきたい。調査の目的や対象、結果の概要については理解したが、分析や考察は本部会が終わった後に行うのか。</p> <p>調査結果全体を通して、行政の子育て支援サービスを知らない市民が多いことがうかがえた。今後、京都市の施策にどのように活かされるのか、考察として提案していただきたいかった。</p>
事務局	<p>今回の部会では、純粋な調査結果から見いだされる意見を賜れるよう、考察等は含まなかった。部会で頂戴した御意見をもとに考察を進め、施策への反映については来年度の課題として検討してまいりたい。</p>

尾崎委員	<p>思っていたよりも「かみ合わせ」に関する心配が高いことがわかった。「かみ合わせ」に対する歯科保健サービス等を検討する必要性もあるのではないかと。</p>
松田部会長	<p>乳幼児健康診査の歯科保健に関する項目の確認や、マニュアル改訂等も含め、検討していただきたい。</p>
松田部会長	<p>続いて、「資料3 京都市青少年・若者に関する意識行動と思春期保健に関する調査について」、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>資料3「京都市青少年・若者に関する意識行動と思春期保健に関する調査について」を用いて説明</p>
松田部会長	<p>ただ今の事務局からの説明について、質問や意見はあるか。</p>
志澤委員	<p>睡眠習慣について、起床時間と就寝時間の集計はあるが、睡眠時間についても集計すると良いのではないかと。</p>
事務局	<p>集計する。</p>
松田部会長	<p>現在の体重と理想の体重について集計されているが、10～20代前半のやせについては、日本産婦人科医会及び日本助産師会においても警告されている。調査結果から得られる課題については重く受け止めていただきたい。</p>
藤垣委員	<p>「子育てをしたい」という割合が大きいことに安心した。また、「育児体験をしたい」という割合が大きいことについても嬉しく思っている。若者が実際に子どもと関わる機会は少ないかもしれないが、育児体験をすることで、経験の積み重ねになるのではないかと。</p> <p>性感染症や避妊方法に係る情報の取得経路について、「学校の先生」という回答が多く、身近な大人から知識を得ることは重要であると実感している。</p>
松田部会長	<p>妊娠・出産・育児に係る健康教育は、京都市においても一部の学校で実施されているが、拡充等、検討していただきたい。</p> <p>現代の子どもや若者は妊娠・出産・育児に関するイメージが不十分なため、ライフデザインについて考え難い状況となっているだろう。以前は、地域住民同士の距離が近く、身近な大人の生活を間近に見ることで、</p>

	<p>ライフデザインを実感する機会があったが、現代では、我々が子どもに体験の機会を提供しなければならない。</p>
志澤委員	<p>性交について、「何も考えていない」という回答から、中高生に対する思春期健康教育の重要性を実感した。性感染症や避妊方法に係る情報の取得経路が、「学校の先生」の次に「インターネット・SNS等」が多いことについては、正しい情報を取得できているか懸念される。</p>
松田部会長	<p>現代の若者の情報収集源は、インターネットである。我々大人も、若者に寄り添えるよう、スキルアップを図ることが重要である。行政からも、可能な限り、インターネットを活用した情報発信について検討していただきたい。</p>
藤本委員	<p>普段、若者の声を聞く機会が無いため、この調査結果をどのように読み解くか、子どもや若者の実態と向き合う機会とできれば良い。</p> <p>例えば、調査結果には自己肯定感の低さが表れているが、これには外国人と比較した日本人の特徴が反映されていると思う。この結果を子どもや若者と向き合う際のヒントにできれば良いだろう。</p>
松田部会長	<p>京都市としては、自己肯定感を高めることが支援の目的のひとつとなるという理解で良いか。学術的にも、日本人は外国人と比較して自己肯定感が低いと言われており、自己肯定感を高めなければならないというよりも、自己肯定感の低さがどの程度、その人の生活に障害が生じているかを考えなければならないのではないかと。</p>
事務局	<p>自己肯定感については、様々な質問項目とクロス集計しており、部会等を通して御意見を頂戴し、課題について議論を進めてまいりたい。</p>
松田部会長	<p>問25の回答から、援助交際に係る規範意識の低下が見られる。性交渉を経験したことがある10代の割合自体は低下しており、どのように調査結果を読み解き施策に反映するか、検討が必要である。</p>
藤垣委員	<p>現代のセクシュアリティは多様化しており、京都府助産師会としても学校に赴き、「いのちの講座」等、健康教育を行っている。生徒の反応としては、性に関する知識を豊富にもっている子どもから、全く知らない子どもまで、反応も様々である。</p> <p>妊娠・出産を控えた年齢の女性から、性に関する相談を受けることもある。自分の身体を大切にするための知識を性教育によって知っていた</p>

<p>松田部会長</p>	<p>だき，大人になった時の行動に結びつくと良い。</p> <p>現代の子どもや若者は，インターネット動画等で性に関する知識は得ているが体験に乏しいため，教育現場とも連携し，取り組みを検討する必要がある。</p>
<p>北島委員</p>	<p>身長と体重については男女差が大きいため，男女別に集計すべきではないか。</p> <p>性に関することでは，性感染症等，子どもや若者を取り巻く危険が多い。インターネット・SNSだけではなく，助産師等の専門職から正しい知識を伝えることが大切であり，健康教育は今後も続けていただきたい。</p>
<p>松田部会長</p>	<p>それでは，本日の議事については，以上となるが，ここまでを通して，改めて意見や質問はあるか。</p> <p>特になければ，本日の審議はこれで終了し，事務局へ進行をお返しする。</p>
<p>司会</p>	<p>本日頂いた意見については，事務局において検討させていただく。</p> <p>以上をもって，第2回「親子いきいき保健部会」を終了する。</p> <p style="text-align: right;">(以上)</p>